

大学生における柔道 MIND の指導状況について

林 弘典¹⁾ 横山 喬之²⁾ 田中 勤³⁾ 石川 美久⁴⁾ 生田 秀和⁵⁾

Status of Judo MIND Instruction Implementation in University Students

Hironori HAYASHI Takayuki YOKOYAMA Tsutomu TANAKA
Yoshihisa ISHIKAWA Hidekazu SHODA

Abstract

Judo MIND is an activity focused on promoting “personal development through Judo,” as per the words of Jigoro Kano, the founder of Kodokan Judo, and it is aimed at both children and adults. This study aimed to examine the extent to which university student judo players are taught Judo MIND by their instructors. A questionnaire survey was conducted with 116 university judo players, and it revealed that the average scores in each of the “M,” “I,” “N,” and “D” instructional situations were high, ranging from 3.57-3.67 (out of 4 points). There was no significant difference regarding teaching status for any of the “M,” “I,” “N,” and “D” instructional situations. Future scholars are urged to investigate in-depth the when, where, and how Judo MIND instruction is being taught.

Key words : Manners, Independence, Nobility, Dignity, University Student

キーワード : 礼節, 自立, 高潔, 品格, 大学生

1) びわこ成蹊スポーツ大学 2) 摂南大学 3) 奈良学園登美ヶ丘高等学校 4) 大阪教育大学
5) 大阪体育大学

I. 緒言

柔道 MIND とは、講道館柔道の創始者である嘉納治五郎師範が目指した「柔道を通じた人づくり」を子どもも大人も皆で推進する活動である。みんなが協力して助け合いながら、よりよい社会を目指す「精力善用」「自他共栄」の精神を、柔道 MIND 活動を通じて広く世の中に広めていくことを目指している（全日本柔道連盟, 2020b）。なお、講道館とは、1882（明治15）年に嘉納治五郎師範によって創設され、世界約200の国と地域で行われている講道館柔道の総本山であり、講道館柔道を指導研究教授してその普及発展を図り、国民、特に青少年の心身鍛練に貢献することを目的とした公益財団法人である（講道館, online）。

柔道 MIND の「M」は Manners（礼節）, 「I」は Independence（自立）, 「N」Nobility（高潔）, 「D」Dignity（品格）を表している。Manners（以下、「M」と略す）は、お互いが礼儀正しくふるまう・相手を思いやる気持ち, Independence（以下、「I」と略す）は感謝の気持ちを持って自分で考えて行動できるように, Nobility（以下、「N」と略す）は「正々堂々」と「正しい行動」で皆から信頼される人に, Dignity（以下、「D」と略す）は「礼節」「自立」「高潔」を身につけ、誰からも尊敬される人と説明されている（全日本柔道連盟, 2020b）。

全日本柔道連盟は、2014年10月より機関誌「まいんど」を発刊するなどして、柔道 MIND を浸透させようとしているが（全日本柔道連盟, 2020b）、柔道登録者数の減少は続いている（全日本柔道連盟, 2022a）。右肩下がりの柔道登録人口という事態を招いた理由について、「危険だ（内田, 2013）と親が敬遠する。小学生は道場や警察の子どもも柔道クラブなどが近所になれば始めるチャンスが少ない。中学生・高校生は学校に柔道部がない場合が多い。柔道部があっても専門の

指導者による体罰が時として起きている（全日本柔道連盟, 2020c）。そして柔道は強くなってもプロはないし、その技術で生活していくことは難しい。」と指摘されている（木村, 2021）。少子化や新型コロナウイルスの影響（全日本柔道連盟: 2022b）によって、柔道の競技人口を増加させることは容易ではないが、まずは減少に歯止めを掛けることが日本柔道の発展に重要である。

日本柔道の発展において、大学柔道選手は重要な存在である。競技面では、いつの時代も大学柔道選手は次世代を担う存在だからである（生田ほか, 2022）。また、卒業後、彼らは実業団や警察、教員として柔道と関わりを持ち、指導に携わる者が多いからである。したがって、大学柔道選手が日本柔道の発展の鍵を握っているといえる。

小学校・中学校・高校では、柔道 MIND 活動が盛んに行われており、多くの大学柔道選手は柔道 MIND に対する認知度は高いと推測される。しかし、指導者から日常的に柔道 MIND の指導を受けていることは全く検証されていない。そのため指導者から日常的な柔道 MIND の指導が行われていることを明らかにできれば、柔道の教育的価値を示すことができる。これによって、柔道の競技人口の減少が抑制され、日本柔道の発展に寄与できる。

そこで本研究の目的は、大学生柔道選手が指導者から柔道 MIND をどの程度指導されているかを検証することとした。

II. 方法

1. 対象者

柔道部に所属している大学生116名を対象とし、2021年7～10月にアンケートを実施した。対象者には、本研究の目的や方法などを説明して同意を得てアンケートを実施した。本研究は、びわこ成蹊スポーツ大学学術研究倫理専門委員会承認されたものである（成ス大第43号）。また、本研究の実施にあ

たり、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守した。

2. 質問項目

表1は、「柔道 MIND」の指導状況に関する質問項目（22項目）を示したものである。柔道五～七段で A 指導員ライセンスの指導者5名が全日本柔道連盟の作成した「柔道の未来のために2020年 第5版（全日本柔道連盟，2020）」における「初心者の練習プログラム」「初心者の練習めあて」、柔道 MIND に関する意識調査（田中ほか，2021；田中ほか，2022），柔道 MIND の前身である柔道ルネッサンスに関する研究（山田ほか，2014；山田ほか，2015；山田ほか，2016）を参考にして質問項目を作成した。回答方法は、対象者に指導されているかどうかについて、「わからない」「ほとんど思わない」「あまり思わな

い」「やや思う」「かなり思う」の5つから選択させた。

3. 分析方法

回答について無記入のデータを削除した上で、「わからない = 0点」「ほとんど思わない = 1点」「あまり思わない = 2点」「やや思う = 3点」「かなり思う = 4点」に置き換え、各質問項目で平均値を算出した。次に、「M」「I」「N」「D」のそれぞれにおける質問全体の平均値を算出し、一元配置分散分析を行った。統計処理には、SPSS Statistics 25 (IBM) を用い、有意水準は5%未満とした。

Ⅲ. 結果

表2は、柔道 MIND の指導状況を示したものである。「M」の平均点は3.67点 ± 0.61、「I」の平均点は3.65 ± 0.61、「N」の平均点は3.58 ± 0.67、「D」の平均点は3.57 ± 1.03

表1 柔道 MIND の指導状況について

「M」の指導状況	
(1) 監督（顧問）から、礼法をするように指導されていますか？	
(2) 監督（顧問）から、あいさつをするように指導されていますか？	
(3) 監督（顧問）から、礼儀作法を守るように指導されていますか？	
(4) 監督（顧問）から、約束事を守るように指導されていますか？	
(5) 監督（顧問）から、マナーを守るように指導されていますか？	
(6) 監督（顧問）から、みんなが気持ちよくすごせるために必要なことを指導されていますか？	
(7) 監督（顧問）から、美しい礼をするように指導されていますか？	
「I」の指導状況	
(1) 監督（顧問）から、自ら真剣に取り組む姿勢が身につくように指導されていますか？	
(2) 監督（顧問）から、自ら進んで稽古ができるように指導されていますか？	
(3) 監督（顧問）から、自ら進んで行動ができるように指導されていますか？	
(4) 監督（顧問）から、自分で考え判断して行動するように指導されていますか？	
(5) 監督（顧問）から、自分の意思で行動するように指導されていますか？	
「N」の指導状況	
(1) 監督（顧問）から、謙虚になれるように指導されていますか？	
(2) 監督（顧問）から、誠実になれるように指導されていますか？	
(3) 監督（顧問）から、相手への思いやりの行動や言動ができるように指導されていますか？	
(4) 監督（顧問）から、正しいことを考え実行できるように指導されていますか？	
(5) 監督（顧問）から、どんな時も正々堂々ふるまうことができるように指導されていますか？	
「D」の指導状況	
(1) 監督（顧問）から、誰からも尊敬される人になれるように指導されていますか？	
(2) 監督（顧問）から、誰からも尊敬される生き方ができるように指導されていますか？	
(3) 監督（顧問）から、立ち居振る舞いが美しくできるように指導されていますか？	
(4) 監督（顧問）から、周囲に配慮した行動ができるように指導されていますか？	
(5) 監督（顧問）から、礼儀正しい言葉遣いができるように指導されていますか？	

表2 柔道 MIND の指導状況についての質問項目

「M」の指導状況		平均	SD
(1) 監督（顧問）から、礼法をするように指導されていますか？		3.71	0.67
(2) 監督（顧問）から、あいさつをするように指導されていますか？		3.76	0.61
(3) 監督（顧問）から、礼儀作法を守るように指導されていますか？		3.71	0.67
(4) 監督（顧問）から、約束事を守るように指導されていますか？		3.67	0.70
(5) 監督（顧問）から、マナーを守るように指導されていますか？		3.73	0.64
(6) 監督（顧問）から、みんなが気持ちよくすごせるために必要なことを指導されていますか？		3.60	0.71
(7) 監督（顧問）から、美しい礼をするように指導されていますか？		3.53	0.89
合計		3.67	0.61
「I」の指導状況		平均	SD
(1) 監督（顧問）から、自ら真剣に取り組む姿勢が身につくように指導されていますか？		3.56	0.74
(2) 監督（顧問）から、自ら進んで稽古ができるように指導されていますか？		3.66	0.63
(3) 監督（顧問）から、自ら進んで行動ができるように指導されていますか？		3.64	0.73
(4) 監督（顧問）から、自分で考え判断して行動するように指導されていますか？		3.66	0.70
(5) 監督（顧問）から、自分の意思で行動するように指導されていますか？		3.72	0.67
合計		3.65	0.61
「N」の指導状況		平均	SD
(1) 監督（顧問）から、謙虚になれるように指導されていますか？		3.57	0.77
(2) 監督（顧問）から、誠実になれるように指導されていますか？		3.54	0.76
(3) 監督（顧問）から、相手への思いやりの行動や言動ができるように指導されていますか？		3.59	0.73
(4) 監督（顧問）から、正しいことを考え実行できるように指導されていますか？		3.65	0.70
(5) 監督（顧問）から、どんな時も正々堂々ふるまうことができるように指導されていますか？		3.53	0.77
合計		3.58	0.67
「D」の指導状況		平均	SD
(1) 監督（顧問）から、誰からも尊敬される人になれるように指導されていますか？		3.42	0.92
(2) 監督（顧問）から、誰からも尊敬される生き方ができるように指導されていますか？		3.83	3.76
(3) 監督（顧問）から、立ち居振る舞いが美しくできるように指導されていますか？		3.50	0.77
(4) 監督（顧問）から、周囲に配慮した行動ができるように指導されていますか？		3.53	0.75
(5) 監督（顧問）から、礼儀正しい言葉遣いができるように指導されていますか？		3.54	0.74
合計		3.57	1.03

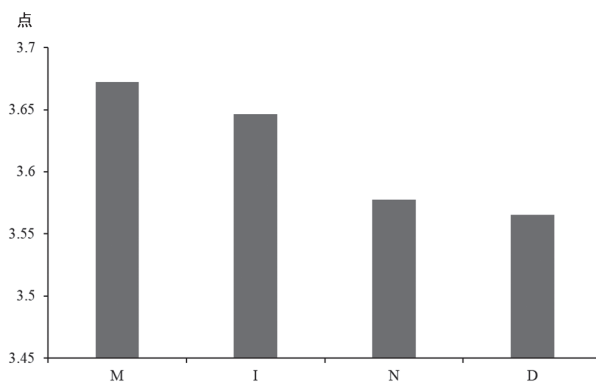


図1 「M」「I」「N」「D」の指導状況の比較

であった。「M」「I」「N」「D」において一元配置分散分析を行った結果、有意な差は認められなかった ($p > 0.05$) (図 1)。Cronbach の α 係数の結果は、「M」 = 0.94, 「I」 = 0.93, 「N」 = 0.94, 「D」 = 0.47 であった。

IV. 考察

大学生柔道指導者の「M」「I」「N」「D」の指導状況は 4 点満点中 3.57 ~ 3.67 と非常に高い得点であることが明らかになった。この結果から大学生柔道指導者は大学生に対して、日常的に柔道 MIND を指導していることが推察される。

大学生柔道部員が指導者から柔道 MIND を指導されていると回答した得点が高かった理由は、大学生柔道選手は小さい頃から精力善用・自他共栄を指導者に教えられているからであると考えられる。また、すべての質問項目が人間教育に関連することから、全体的に MIND の指導状況の点数が高くなったためであると考えられる。したがって、「M」「I」「N」「D」において有意な差が見られなかったと推察される。

なお、「精力善用」「自他共栄」とは、講道館柔道の指針として掲げられているものである。精力善用とは、心身の力を最も有効に活用することを意味する。自他共栄とは、その力を自己の「栄え」のみを目的とせず、助け合い、譲り合い、融和協調して共に栄えることを意味する。つまり、社会生活の存続発展のための人間教育が重要視されている (嘉納ほか, 1999a, 1999b)。

「M」「I」「N」「D」の中で「M」「I」は 3.6 点以上の高得点となった。「M」は武道で重要視されている礼節に関する項目であること (日本武道館, 1987)、「I」は競技に対する取り組み姿勢に関する項目であったために「N」「D」よりも高くなったと考えられる。その中でも、「M」が最も高くなった理由は、柔道の試合では礼法が重視されており、しっかりとした礼法ができなければ審判員の指示に

よって何度もやり直しをさせられるからである (全日本柔道連盟審判, 2018)。また、監督やコーチをはじめとして応援する側も対戦相手を侮辱するような言動があれば審判員に注意され、退場処分になるからである (全日本柔道連盟審判, 2015)。このように、柔道では、しっかりと礼法を守らせて相手に敬意を示すことが徹底されていることが大きな影響を及ぼしていると考えられる。

「M」Manners (礼節)、「I」は Independence (自立)、「N」Nobility (高潔)、「D」Dignity (品格) の 4 つの能力は、柔道以外のことでも向上することが十分に考えられる。そのため今後の研究において、柔道 MIND に関する能力が柔道を取り組んだことによって向上したのか、指導者の指導によって向上したのか、もしくは柔道とは関係なく一般的な生活指導で向上したのかを区別できるような設問を作成することが求められる。また、半構造化面接を用いるなど詳しく調査を進めることが必要である。

V. 総括

本研究の目的は、大学生柔道選手が指導者から柔道 MIND をどの程度指導されているかを検証することとした。大学生柔道部員 116 名を対象にアンケート調査を実施した。その結果、大学生柔道指導者の「M」「I」「N」「D」の指導状況は 4 点中 3.57 ~ 3.67 と非常に高い得点であることが明らかになった。また、「M」「I」「N」「D」の指導状況に有意な差が見られなかった。今後、柔道 MIND がいつ、どこで、どのように指導されているかを詳細に調査する必要がある。

文献

- 嘉納行光・醍醐敏郎・川村禎三・竹内善徳・中村良三・佐藤宣踐 (1999a) 柔道大事典。アテネ書房, p.194.
嘉納行光・醍醐敏郎・川村禎三・竹内善徳・中村良三・佐藤宣踐 (1999b) 柔道大事典。

- アテネ書房, p.230.
- 木村秀和 (2021) 「切り札」山下泰裕は日本柔道界を改革できるか. 本の泉社, pp.142-147.
- 講道館 (online) 活動. <http://kodokanjudo.institute.org/activity/> (参照日 2022年11月5日).
- 日本武道館 (1987) 武道憲章. <https://www.nipponbudokan.or.jp/shinkoujigyoku/kenshou>, (参照日 2023年9月1日).
- 生田秀和・石川美久・横山喬之・林弘典 (2022) 国際柔道連盟試合審判規定導入前の全日本柔道選手権大会における大学生柔道選手のイメージに関する研究. 関西武道学研究, 31 (1) : 19-31.
- 田中勤・石川美久・横山喬之・正木嘉美・生田秀和・林弘典 (2021) 「柔道 MIND」活動に関する意識調査—指導者を対象として—. 関西武道学研究, 30 (1) : 21-27.
- 内田良 (2013) 柔道事故. 河出書房新社.
- 山田利彦・金丸雄介・石井孝法・福見友子・上水研一朗・金野潤・柏崎克彦 (2014) 柔道ルネッサンス活動意識調査～2010年柔道ルネッサンスフォーラム参加者を対象に～. 了徳寺大学研究紀要, 8 : 79-87.
- 山田利彦・金丸雄介・石井孝法・越田専太郎・小菅亨・福見友子・上水研一朗・金野潤・柏崎克彦 (2015) 柔道ルネッサンス活動意識調査～2010年全国高校総合体育大会柔道競技監督会議出席者を対象に～. 了徳寺大学研究紀要, 9 : 17-31.
- 山田利彦・金丸雄介・石井孝法・上水研一朗・金野潤 (2016) 柔道ルネッサンス活動に関する意識調査—2010年全日本実業柔道個人選手権大会代表者会議出席者を対象に一. 了徳寺大学研究紀要, 10 : 31-44.
- 全日本柔道連盟 (2015) 2014～2016年国際柔道連盟試合審判規程(和訳・ガイド付き). <http://judo.or.jp/cms/wp-content/uploads/2015/04/6f7614f6f41d9b907929e1f92a43f8f8.pdf>, (参照日 2023年9月1日).
- 全日本柔道連盟 (2018) 2018～2020年国際柔道連盟試合審判規程(和訳・ガイド付き). <http://judo.or.jp/cms/wp-content/uploads/2018/09/b9503aa6efbe0dc222359ed70050249c.pdf>, (参照日 2023年9月1日).
- 全日本柔道連盟 (2020a) 柔道の未来のために 柔道の安全指導 2020年(第5版). 全日本柔道連盟.
- 全日本柔道連盟 (2020b) 柔道 MIND プロジェクト. <https://www.judo.or.jp/what-is-judo/judo-mind/>, (参照日 2023年9月1日).
- 全日本柔道連盟 (2020c) 懲戒処分の実施について. <https://www.judo.or.jp/news/341/>, (参照日 2023年9月1日).
- 全日本柔道連盟 (2022a) 全日本柔道連盟登録団体・個人者数推移 2004年～2021年. <https://www.judo.or.jp/cms/wp-content/uploads/2022/03/%E3%80%8C%E7%99%BB%E9%8C%B2%E4%BA%BA%E5%8F%A3%E3%81%AE%E6%8E%A8%E7%A7%BB%E3%80%8D%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF-%EF%BC%882021%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E6%9C%AB%E7%89%88%EF%BC%891-4.pdf>, (参照日 2022年11月23日)
- 全日本柔道連盟 (2022b) 新型コロナウイルス感染症関連. <https://www.judo.or.jp/news/503/>, (参照日 2023年9月1日).

(2023年9月15日受付)
(2023年11月1日受理)